

【表紙】

【提出書類】	四半期報告書
【根拠条文】	金融商品取引法第24条の4の7第1項
【提出先】	近畿財務局長
【提出日】	平成29年10月16日
【四半期会計期間】	第89期第2四半期（自 平成29年6月1日 至 平成29年8月31日）
【会社名】	株式会社山陽百貨店
【英訳名】	Sanyo Department Store Co., Ltd.
【代表者の役職氏名】	代表取締役社長 高野 勝
【本店の所在の場所】	兵庫県姫路市南町1番地
【電話番号】	（079）223－1231（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役業務本部長 岩野 誠
【最寄りの連絡場所】	兵庫県姫路市南町1番地
【電話番号】	（079）223－1231（代表）
【事務連絡者氏名】	取締役業務本部長 岩野 誠
【縦覧に供する場所】	株式会社東京証券取引所 （東京都中央区日本橋兜町2番1号）

第一部【企業情報】

第1【企業の概況】

1【主要な経営指標等の推移】

回次	第88期 第2四半期 連結累計期間	第89期 第2四半期 連結累計期間	第88期
会計期間	自平成28年 3月1日 至平成28年 8月31日	自平成29年 3月1日 至平成29年 8月31日	自平成28年 3月1日 至平成29年 2月28日
売上高 (百万円)	9,402	9,312	19,248
経常利益 (百万円)	26	34	119
親会社株主に帰属する四半期 (当期)純利益 (百万円)	37	25	96
四半期包括利益又は包括利益 (百万円)	39	28	102
純資産額 (百万円)	1,698	1,789	1,760
総資産額 (百万円)	13,660	13,593	14,075
1株当たり四半期(当期)純利 益金額 (円)	46.58	32.33	120.35
潜在株式調整後1株当たり四半 期(当期)純利益金額 (円)	—	—	—
自己資本比率 (%)	12.4	13.2	12.5
営業活動による キャッシュ・フロー (百万円)	340	432	504
投資活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△112	△28	△137
財務活動による キャッシュ・フロー (百万円)	△767	△752	△244
現金及び現金同等物の四半期末 (期末)残高 (百万円)	1,154	1,467	1,816

回次	第88期 第2四半期 連結会計期間	第89期 第2四半期 連結会計期間
会計期間	自平成28年 6月1日 至平成28年 8月31日	自平成29年 6月1日 至平成29年 8月31日
1株当たり四半期純利益金額又は 1株当たり四半期純損失金額 (△) (円)	△5.83	17.29

- (注) 1. 当社は四半期連結財務諸表を作成しておりますので、提出会社の主要な経営指標等の推移については記載しておりません。
2. 売上高には、消費税等は含んでおりません。
3. 潜在株式調整後1株当たり四半期(当期)純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

2【事業の内容】

当第2四半期連結累計期間において、当社グループ(当社及び当社の関係会社)が営む事業の内容について、重要な変更はありません。また、主要な関係会社における異動もありません。

第2【事業の状況】

1【事業等のリスク】

当第2四半期連結累計期間において、新たに発生した事業等のリスクはありません。
また、前事業年度の有価証券報告書に記載した事業等のリスクについての重要な変更はありません。

2【経営上の重要な契約等】

当第2四半期連結会計期間において、経営上の重要な契約等の決定又は締結等はありません。

3【財政状態、経営成績及びキャッシュ・フローの状況の分析】

文中の将来に関する事項は、当四半期連結会計期間の末日現在において当社グループが判断したものであります。

(1) 業績の状況

当第2四半期連結累計期間（平成29年3月1日～平成29年8月31日）における国内経済は、国の各種政策の効果もあり、雇用・所得環境の改善傾向が見られるなど、景気は緩やかな回復基調にありましたが、欧米の政治情勢を巡る先行き不透明感などの海外経済の不確実性の高まりによる金融市場の変動の影響もあり、内需を中心とした景気の先行きは依然として楽観視できない状況で推移いたしました。

百貨店業界におきましては、昨年度から引き続き、全国的に衣料品や家庭用品の不振が続いているものの、都市圏につきましては、インバウンド購買がプラス基調に転じた影響もあり売上が回復基調となっておりますが、依然として地方圏は厳しい商況が続いております。

このような状況の中、当社グループは本年度よりスタートする新たな中期経営計画（平成29年度～平成31年度）を策定し、そのビジョンに掲げる「日本一生き生きとした百貨店」の実現に向け、さらなる取り組みの強化に努めべく、各種の営業施策を展開してまいりました。

営業面では、激化している姫路商圏のオーバーストア状態の中で差別化を図るべく、引き続き、商品力の強化と店舗環境の整備に注力してまいりました。具体的な取り組みといたしましては、平成29年3月に婦人靴売場を西館に移設することで、本館の婦人バッグ売場と婦人服売場を含めてカテゴリー別売場の再配置を行い、お客さまが買い回りしやすい売場配置に再構築いたしました。また、食料品売場には、地元で人気の手作りパンの店「プロムナード」を導入し、新たなお客さまの獲得と売上の拡大に努めるとともに、6階フロアには、国内・海外ツアーの旅行代理店「近畿日本ツーリスト」を誘致し、お客さまサービスの強化を図りました。催し会場につきましては、毎回大きなご支持をいただいている「北海道物産展」などの物産展催事では、初出展や初登場などの話題の商材を多数取り揃え、集客力の強化に努めました。また、美術催事といたしましては、現代を代表する平成の大仏師のひとり「向吉悠睦の世界展」を初開催するとともに、「具体美術」の継承者である向井修二の作品を中心に発表した「山陽の美展」や、日本で最も老舗で日本洋画界の礎を築いた画廊である「日動画廊 洋画名品展」を開催し、いずれも大きな成果をあげることができました。

経費面におきましては、広告宣伝費の効率的な運用に加え、水道光熱費や販売・事務用品費の低減を図るなど、限られた経営資源の中で効率的な運用に努めました。

この結果、当第2四半期連結累計期間の売上高は、リモデル効果が続く化粧品等の婦人雑貨売場が好調に推移したものの、衣料品の伸び悩みにより9,312百万円（前年同期比1.0%減）となりました。利益面につきましては、経費の効率的な運用に努めたことにより、営業損失19百万円（前年同期営業損失23百万円）、経常利益34百万円（前年同期比32.6%増）と改善いたしました。親会社株主に帰属する四半期純利益は、前年の特別利益計上の反動などにより25百万円（前年同期比30.6%減）となりました。

(2) 財政状態の分析

当第2四半期連結会計期間末の総資産は、前連結会計年度末に比べ482百万円減少し、13,593百万円となりました。これは主に、借入金の返済による現金及び預金の減少348百万円、有形固定資産の減少178百万円等によるものであります。

負債は、前連結会計年度末に比べ510百万円減少し、11,804百万円となりました。これは主に、支払手形及び買掛金の増加162百万円等に対し、返済による借入金の減少745百万円等によるものであります。

純資産は、前連結会計年度末に比べ28百万円増加し、1,789百万円となりました。これは主に、親会社株主に帰属する四半期純利益による利益剰余金の増加25百万円によるものであります。

(3) キャッシュ・フローの状況

当第2四半期連結累計期間における現金及び現金同等物（以下「資金」という。）は、前連結会計年度末に比べ348百万円減少し、1,467百万円となりました。

（営業活動によるキャッシュ・フロー）

営業活動の結果得られた資金は432百万円となりました。これは主として、税金等調整前四半期純利益32百万円、減価償却費203百万円、仕入債務の増加162百万円等による収入に対し、売上債権の増加44百万円等による支出によるものであり、前年同四半期連結累計期間に比べ91百万円収入増となりました。

（投資活動によるキャッシュ・フロー）

投資活動の結果使用した資金は28百万円となりました。これは主として、有形固定資産の取得による支出16百万円、無形固定資産の取得による支出9百万円等によるものであり、前年同四半期連結累計期間に比べ83百万円支出減となりました。

（財務活動によるキャッシュ・フロー）

財務活動の結果使用した資金は752百万円となりました。これは主として、借入金の返済745百万円等の支払があったことによるものであり、前年同四半期連結累計期間に比べ15百万円支出減となりました。

(4) 事業上及び財務上の対処すべき課題

当第2四半期連結累計期間において、当社グループの事業上及び財務上の対処すべき課題に重要な変更及び新たに生じた課題はありません。

(5) 研究開発活動

該当事項はありません。

第3【提出会社の状況】

1【株式等の状況】

(1)【株式の総数等】

①【株式の総数】

種類	発行可能株式総数（株）
普通株式	2,000,000
計	2,000,000

②【発行済株式】

種類	第2四半期会計期間末 現在発行数（株） （平成29年8月31日）	提出日現在発行数 （株） （平成29年10月16日）	上場金融商品取引所名 又は登録認可金融商品 取引業協会名	内容
普通株式	810,000	810,000	東京証券取引所 JASDAQ （スタンダード）	単元株式数100株
計	810,000	810,000	—	—

(2)【新株予約権等の状況】

該当事項はありません。

(3)【行使価額修正条項付新株予約権付社債券等の行使状況等】

該当事項はありません。

(4)【ライツプランの内容】

該当事項はありません。

(5)【発行済株式総数、資本金等の推移】

年月日	発行済株式 総数増減数 （株）	発行済株式 総数残高 （株）	資本金増減額 （千円）	資本金残高 （千円）	資本準備金 増減額 （千円）	資本準備金 残高 （千円）
平成29年6月1日～ 平成29年8月31日	—	810,000	—	405,000	—	7,554

(6) 【大株主の状況】

平成29年8月31日現在

氏名又は名称	住所	所有株式数 (株)	発行済株式総数 に対する所有株式 数の割合(%)
山陽電気鉄道株式会社	神戸市長田区御屋敷通3丁目1番1号	417,296	51.52
神姫バス株式会社	兵庫県姫路市西駅前町1番地	190,116	23.47
内海 欣子	兵庫県姫路市	19,447	2.40
山陽百貨店従業員持株会	兵庫県姫路市南町1番地	9,221	1.14
株式会社山陽フレンズ	神戸市長田区御屋敷通3丁目1番1号	8,000	0.99
株式会社三井住友銀行	東京都千代田区丸の内1丁目1番2号	6,000	0.74
鹿島建設株式会社	東京都港区元赤坂1丁目3番1号	5,400	0.67
関電不動産開発株式会社	大阪市北区中之島3丁目3番23号	5,400	0.67
株式会社みなと銀行	神戸市中央区三宮町2丁目1番1号	3,700	0.46
龍田紡績株式会社	兵庫県姫路市東延末264	3,600	0.44
計	—	668,180	82.49

(注) 上記のほか、自己株式が7,368株あります。

(7) 【議決権の状況】

① 【発行済株式】

平成29年8月31日現在

区分	株式数(株)	議決権の数(個)	内容
無議決権株式	—	—	—
議決権制限株式(自己株式等)	—	—	—
議決権制限株式(その他)	—	—	—
完全議決権株式(自己株式等)	(自己保有株式) 普通株式 7,300	—	—
完全議決権株式(その他)	普通株式 789,000	7,890	—
単元未満株式	普通株式 13,700	—	1単元(100株)未満の株式
発行済株式総数	810,000	—	—
総株主の議決権	—	7,890	—

② 【自己株式等】

平成29年8月31日現在

所有者の氏名又は 名称	所有者の住所	自己名義所有 株式数(株)	他人名義所有 株式数(株)	所有株式数の 合計(株)	発行済株式総数に 対する所有株式数 の割合(%)
(自己保有株式) 株式会社山陽百貨店	兵庫県 姫路市南町1番地	7,300	—	7,300	0.90
計	—	7,300	—	7,300	0.90

2 【役員の状況】

該当事項はありません。

第4【経理の状況】

1. 四半期連結財務諸表の作成方法について

当社の四半期連結財務諸表は、「四半期連結財務諸表の用語、様式及び作成方法に関する規則」（平成19年内閣府令第64号）に基づいて作成しております。

2. 監査証明について

当社は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、第2四半期連結会計期間（平成29年6月1日から平成29年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年3月1日から平成29年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表について、新日本有限責任監査法人による四半期レビューを受けております。

1 【四半期連結財務諸表】

(1) 【四半期連結貸借対照表】

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年 2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年 8月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	1,816,191	1,467,515
受取手形及び売掛金	642,771	687,030
商品	1,124,931	1,114,091
貯蔵品	9,766	11,279
繰延税金資産	14,920	14,920
その他	134,653	142,162
貸倒引当金	△2,034	△2,040
流動資産合計	3,741,200	3,434,959
固定資産		
有形固定資産		
建物及び構築物（純額）	3,815,615	3,675,596
土地	4,729,430	4,729,430
その他（純額）	287,074	248,601
有形固定資産合計	8,832,121	8,653,628
無形固定資産	136,713	139,464
投資その他の資産		
投資有価証券	834,357	837,785
繰延税金資産	11,612	11,958
差入保証金	465,161	464,249
その他	69,620	66,257
貸倒引当金	△15,079	△14,955
投資その他の資産合計	1,365,673	1,365,296
固定資産合計	10,334,507	10,158,388
資産合計	14,075,708	13,593,348
負債の部		
流動負債		
支払手形及び買掛金	1,763,831	1,926,625
短期借入金	2,590,000	2,410,000
未払法人税等	36,327	17,739
前受金	2,232,197	2,322,175
商品券	1,244,481	1,262,026
賞与引当金	16,894	16,924
商品券回収損引当金	243,700	240,400
その他	383,476	382,093
流動負債合計	8,510,907	8,577,983
固定負債		
長期借入金	3,400,000	2,835,000
繰延税金負債	10,820	10,838
退職給付に係る負債	333,011	325,141
その他	60,259	55,267
固定負債合計	3,804,091	3,226,248
負債合計	12,314,998	11,804,231

(単位：千円)

	前連結会計年度 (平成29年2月28日)	当第2四半期連結会計期間 (平成29年8月31日)
純資産の部		
株主資本		
資本金	405,000	405,000
資本剰余金	7,554	7,554
利益剰余金	1,386,295	1,412,247
自己株式	△15,513	△15,548
株主資本合計	1,783,337	1,809,254
その他の包括利益累計額		
その他有価証券評価差額金	28,265	27,624
退職給付に係る調整累計額	△50,893	△47,762
その他の包括利益累計額合計	△22,628	△20,137
純資産合計	1,760,709	1,789,116
負債純資産合計	14,075,708	13,593,348

(2) 【四半期連結損益計算書及び四半期連結包括利益計算書】

【四半期連結損益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
売上高	9,402,395	9,312,089
売上原価	7,401,454	7,336,129
売上総利益	2,000,940	1,975,960
販売費及び一般管理費	※ 2,024,646	※ 1,995,774
営業損失(△)	△23,706	△19,814
営業外収益		
受取利息	206	201
受取配当金	2,642	2,881
受取家賃	16,218	18,237
債務勘定整理益	57,838	58,929
その他	28,903	29,173
営業外収益合計	105,809	109,422
営業外費用		
支払利息	13,577	11,886
商品券回収損引当金繰入額	42,358	42,737
その他	11	308
営業外費用合計	55,946	54,932
経常利益	26,156	34,676
特別利益		
固定資産受贈益	28,580	—
特別利益合計	28,580	—
特別損失		
固定資産除却損	10,002	2,274
特別損失合計	10,002	2,274
税金等調整前四半期純利益	44,733	32,402
法人税等	7,335	6,450
四半期純利益	37,397	25,952
非支配株主に帰属する四半期純利益	—	—
親会社株主に帰属する四半期純利益	37,397	25,952

【四半期連結包括利益計算書】

【第2四半期連結累計期間】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
四半期純利益	37,397	25,952
その他の包括利益		
その他有価証券評価差額金	△622	△640
退職給付に係る調整額	2,810	3,131
その他の包括利益合計	2,188	2,490
四半期包括利益	39,585	28,442
(内訳)		
親会社株主に係る四半期包括利益	39,585	28,442
非支配株主に係る四半期包括利益	—	—

(3) 【四半期連結キャッシュ・フロー計算書】

(単位：千円)

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
営業活動によるキャッシュ・フロー		
税金等調整前四半期純利益	44,733	32,402
減価償却費	205,505	203,492
貸倒引当金の増減額 (△は減少)	△8,515	△118
賞与引当金の増減額 (△は減少)	1,420	30
退職給付に係る負債の増減額 (△は減少)	△3,895	△4,738
商品券回収損引当金の増減額 (△は減少)	△3,300	△3,300
受取利息及び受取配当金	△2,849	△3,082
支払利息	13,577	11,886
固定資産受贈益	△28,580	—
売上債権の増減額 (△は増加)	△68,214	△44,258
たな卸資産の増減額 (△は増加)	△75,252	9,326
差入保証金の増減額 (△は増加)	4,660	912
仕入債務の増減額 (△は減少)	145,460	162,793
前受金の増減額 (△は減少)	126,996	89,978
未払金の増減額 (△は減少)	△12,014	7,612
未払消費税等の増減額 (△は減少)	△42,882	△32,792
その他	94,875	40,710
小計	391,724	470,853
利息及び配当金の受取額	2,696	3,244
利息の支払額	△13,550	△11,355
法人税等の支払額	△40,189	△30,232
営業活動によるキャッシュ・フロー	340,681	432,510
投資活動によるキャッシュ・フロー		
有形固定資産の取得による支出	△107,796	△16,581
無形固定資産の取得による支出	△264	△9,000
投資有価証券の取得による支出	△4,326	△3,279
投資活動によるキャッシュ・フロー	△112,387	△28,861
財務活動によるキャッシュ・フロー		
短期借入金の純増減額 (△は減少)	△80,000	△60,000
長期借入金の返済による支出	△680,000	△685,000
リース債務の返済による支出	△7,289	△7,289
自己株式の取得による支出	△174	△35
財務活動によるキャッシュ・フロー	△767,464	△752,324
現金及び現金同等物に係る換算差額	—	—
現金及び現金同等物の増減額 (△は減少)	△539,170	△348,676
現金及び現金同等物の期首残高	1,694,014	1,816,191
現金及び現金同等物の四半期末残高	※ 1,154,844	※ 1,467,515

【注記事項】

(追加情報)

(繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針の適用)

「繰延税金資産の回収可能性に関する適用指針」(企業会計基準適用指針第26号 平成28年3月28日)を第1四半期連結会計期間から適用しております。

(四半期連結損益計算書関係)

※ 販売費及び一般管理費のうち主要な費目及び金額は次のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
給料手当	618,609千円	601,647千円
賞与引当金繰入額	16,704	16,924
退職給付費用	23,994	23,867
地代家賃	250,573	252,586
減価償却費	205,505	203,492

(四半期連結キャッシュ・フロー計算書関係)

※ 現金及び現金同等物の四半期末残高と四半期連結貸借対照表に掲記されている科目の金額との関係

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
現金及び預金勘定	1,154,844千円	1,467,515千円
預入期間が3ヶ月を超える定期預金	—	—
現金及び現金同等物	1,154,844	1,467,515

(株主資本等関係)

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)

1. 配当に関する事項

該当事項はありません。

2. 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

該当事項はありません。

(セグメント情報等)

【セグメント情報】

I 前第2四半期連結累計期間(自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)

当社グループは、百貨店業単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

II 当第2四半期連結累計期間(自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)

当社グループは、百貨店業単一であるため、セグメント情報の記載を省略しております。

(1株当たり情報)

1株当たり四半期純利益金額及び算定上の基礎は、以下のとおりであります。

	前第2四半期連結累計期間 (自 平成28年3月1日 至 平成28年8月31日)	当第2四半期連結累計期間 (自 平成29年3月1日 至 平成29年8月31日)
1株当たり四半期純利益金額	46円58銭	32円33銭
(算定上の基礎)		
親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	37,397	25,952
普通株主に帰属しない金額(千円)	—	—
普通株式に係る親会社株主に帰属する四半期純利益金額(千円)	37,397	25,952
普通株式の期中平均株式数(株)	802,790	802,653

(注) 潜在株式調整後1株当たり四半期純利益金額については、潜在株式が存在しないため記載しておりません。

(重要な後発事象)

該当事項はありません。

2【その他】

該当事項はありません。

第二部【提出会社の保証会社等の情報】

該当事項はありません。

独立監査人の四半期レビュー報告書

平成29年10月13日

株式会社 山陽百貨店

取締役会 御中

新日本有限責任監査法人

指定有限責任社員 公認会計士 佐藤 陽子 印
業務執行社員

指定有限責任社員 公認会計士 梅原 隆 印
業務執行社員

当監査法人は、金融商品取引法第193条の2第1項の規定に基づき、「経理の状況」に掲げられている株式会社山陽百貨店の平成29年3月1日から平成30年2月28日までの連結会計年度の第2四半期連結会計期間（平成29年6月1日から平成29年8月31日まで）及び第2四半期連結累計期間（平成29年3月1日から平成29年8月31日まで）に係る四半期連結財務諸表、すなわち、四半期連結貸借対照表、四半期連結損益計算書、四半期連結包括利益計算書、四半期連結キャッシュ・フロー計算書及び注記について四半期レビューを行った。

四半期連結財務諸表に対する経営者の責任

経営者の責任は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して四半期連結財務諸表を作成し適正に表示することにある。これには、不正又は誤謬による重要な虚偽表示のない四半期連結財務諸表を作成し適正に表示するために経営者が必要と判断した内部統制を整備及び運用することが含まれる。

監査人の責任

当監査法人の責任は、当監査法人が実施した四半期レビューに基づいて、独立の立場から四半期連結財務諸表に対する結論を表明することにある。当監査法人は、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期レビューの基準に準拠して四半期レビューを行った。

四半期レビューにおいては、主として経営者、財務及び会計に関する事項に責任を有する者等に対して実施される質問、分析的手続その他の四半期レビュー手続が実施される。四半期レビュー手続は、我が国において一般に公正妥当と認められる監査の基準に準拠して実施される年度の財務諸表の監査に比べて限定された手続である。

当監査法人は、結論の表明の基礎となる証拠を入手したと判断している。

監査人の結論

当監査法人が実施した四半期レビューにおいて、上記の四半期連結財務諸表が、我が国において一般に公正妥当と認められる四半期連結財務諸表の作成基準に準拠して、株式会社山陽百貨店及び連結子会社の平成29年8月31日現在の財政状態並びに同日をもって終了する第2四半期連結累計期間の経営成績及びキャッシュ・フローの状況を適正に表示していないと信じさせる事項がすべての重要な点において認められなかった。

利害関係

会社と当監査法人又は業務執行社員との間には、公認会計士法の規定により記載すべき利害関係はない。

以 上

（注）1. 上記は四半期レビュー報告書の原本に記載された事項を電子化したものであり、その原本は当社（四半期報告書提出会社）が別途保管しております。

2. XBRLデータは四半期レビューの対象には含まれていません。